

令和7年度(2025年度)とうきょう すくわくプログラム活動報告書(八王子市)

施設名	認定こども園ぽかぽか保育園大和田
担当者名	廣岡ゆき

1. 活動のテーマ

サイエンス

<テーマ>

<テーマの設定理由>

2025年6月

自然素材と身近な現象を通した五感と探究心の育成

6月は梅雨の時期でもあり、自然環境の変化や身近な素材に触れる機会が多い時期である。子どもたちが「なんで?」「どうして?」と感じる体験を通して、五感(視覚・嗅覚・触覚など)を働かせながら主体的に探究する力を育てることを目的として本テーマを設定した。

また、正解を伝えるのではなく、自ら気づき、試し、感じるプロセスを大切にすることで、子ども一人ひとりの思考力や表現力の育ちにつなげることをねらいとした。

2. 活動スケジュール

- ・第1週:しそを使った色の変化実験、におい当て遊び
- ・第2週:木の枝を使った自然遊び、枝と粘土の構造遊び
- ・第3週:雨を使った表現遊び(屋外・室内)
- ・第4週:段ボールを使った素材変化と制作活動

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・赤しそ、青しそ、レモン水、クエン酸水、重曹水
- ・食品保存袋、小分けカップ、トレー、制作シート
- ・木の枝、粘土
- ・絵の具、スポイト、ストロー、レインコート、タオル
- ・段ボール、水、テープ、制作道具

環境設定として、子ども一人ひとりが集中できるよう個別に材料を用意し、汚れを想定したトレーやシートの準備、安全面への配慮（誤飲防止や危険物の認識）を行った。また、活動前にはポスター掲示や声かけにより期待感を高める工夫を行った。

4. 探究活動の実践

本活動では、保育者が結果を先に伝えるのではなく、「まずやってみる」ことを大切にしました。

- ・色が変わる様子に対して「なんでこうなるの？」
- ・においの違いに対して「これ何に似てる？」
- ・雨のしずくに対して「どうやって広がった？」

など、子どもの気づきを引き出す問いかけを中心に関わった。

また、活動中は子どもの発言や発見を否定せず受け止め、「一緒に考える姿勢」を大切にしながら探究を深めた。

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【しそジュース実験】

しその色が変わる様子に驚き、「魔法みたい」「さっきと違う！」といった反応が見られた。においにも注目し、嗅覚を使って表現しようとする姿が見られた。

【におい当て遊び】

「これは葉っぱのにおい」「いいにおい」「変なにおい」など、自分なりの言葉で表現する姿が見られた。保育者は「何に似てるかな？」と問いかけることで、言語化を促した。

【木の枝遊び】

枝を転がす・叩く・折るなど、自由な関わりが見られた。「音が違う」「固い」「痛い」など感覚に気づく姿があり、試行錯誤する様子が見られた。

【雨の活動】

雨に触れることで「冷たい」「音がする」「にじんだ」など、普段とは異なる自然現象に興味を持つ姿が見られた。雨が苦手な子も無理なく参加できるよう配慮した。

【段ボール活動】

固い段ボールが柔らかくなる変化に驚き、「なんで？」と疑問を持つ姿が見られた。また、素材の変化を活かして制作に発展させる姿も見られた。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

- ・子どもは結果よりも「変化の過程」に強い興味を持つこと
- ・五感を伴う体験は、言葉や表現を引き出す大きなきっかけになること
- ・正解を教えなくても、子ども自身が気づき学ぶ力を持っていること
- ・環境設定（道具・安全・個別準備）が活動の質に大きく影響すること
- ・保育者の関わり方（問いかけ・受容）が探究の深さを左右すること

今回の活動を通して、「教える」ではなく「共に探究する」保育の重要性を改めて実感した。今後も

子どもの「なんで？」を大切にしながら、主体的な学びを支える環境と関わりを意識していきたい。